

140周年事業準備委員会 実施報告

委員長 清水 伸行 (明善中学校)

副委員長 赤羽洋一郎 (芳川小学校)

委員

玉水 智香子 (開智小) 田上 達人 (島内小) 大澤 秀好 (梓川小)

柳澤 充人 (大野川小) 桐原 さやか (梓川中) 五味 重栄 (松本ろう学校)

1 活動方針 (研究テーマ)

来年度、松本市教育会 140 年を迎えるにあたり、記念事業の計画を立て、来年度の事業がスムーズに進むよう準備を行う。主に、以下の2つの事業の計画を立てていく。

- (1) 140周年教育会総集会(R6) 記念講演 講師の選定
- (2) 松本市教育会 140周年記念誌(R6 発行)の内容

2 活動内容 (活動事項)

- (1) 140周年教育会総集会(R6) 記念講演 講師の選定

来年度の教育会総集会(市教委との合同開催)の講師を委員会で検討し、候補者案を庶務・監事会に提案した。

- (2) 松本市教育会 140周年記念誌(R6 発行)の内容

来年度発行予定の「松本市教育会 140周年記念誌」の掲載内容等について、委員会で検討し、別紙のような内容案を決定した。基本的な方針として以下の点に留意して内容を決めだした。

- 131年～140年の10年間の教育会の歩み、教育界の時代の動き、市内各校の取り組み等、10年間の歴史が見えるものに。
- 同時に会員が気軽に読むことができ、「教育会ってこんなことをやっているんだ」と知ることができるような内容に。
- これまでの10年間に発刊された「松本教育」の原稿を手直しして掲載するなど、できるだけ記念誌作成にあたっての会員の負担を減らすように配慮していく。

3 反省・来年度への課題

- 本年度、他郡市へ異動して、来年度松本にいない職員には、記念誌が手元に渡らないことになる。教育会のホームページ等で記念誌の内容を公開し、誰でも読めるような形にしていたほうがよいのでは。
- ホームページでの公開をすれば、記念誌の印刷部数を減らすことができ、会費の削減にもつながるのではないかと。今年度中に見積もりをとっておくと来年度の予算の見通しが立つ。
- 記念誌の配布等について、会員へアンケート等を取り、意見を聞いていくことも必要。
- 来年度「140周年記念誌委員会」には、今年度の会誌会報委員、周年行事準備委員会にいた会員が所属すると、来年度の記念誌作成がスムーズにいく。

4 その他 (資料等)